

いちモニ 実施報告書

アンケート名称	第 11 次市川市交通安全計画の成果に関するアンケート
担当部・課名	道路交通部 交通計画課
アンケート概要（実施期間 令和 8 年 6 月 4 日～令和 8 年 6 月 1 3 日）	
本アンケートは、主に、第 1 1 次市川市交通安全計画（計画期間：令和 3（2 0 2 1）年度～令和 7（2 0 2 5）年度）に基づくこれまでの取組について、市民の皆さまの実感を把握するために実施するものです。 計画開始前にあたる令和 2（2 0 2 0）年度以前と比べて、交通安全に対する意識や道路環境などがどのように変化したと感じるかをお伺いし、今後の交通安全施策の参考とさせていただきます。	
市政への反映状況等	
今回のアンケートでは、第 1 1 次市川市交通安全計画の成果に関するアンケートを実施し、有効回答数 4, 3 1 2 件と多くの方からご回答をいただくことができました。 まず、日常生活で最もよく利用する移動手段については、「自転車」が 3 3. 0 %、「徒歩」が 3 2. 9 %、「鉄道」が 1 4. 1 %、「自動車（自分で運転）」が 1 3. 0 %となり、自転車及び徒歩を主な移動手段とする方が多く回答していることがわかりました。 また、市が行っている交通安全に関するルール遵守やマナー向上の取組を見たことがある媒体については、「広報いちかわ」が 5 2. 5 %、「街頭の注意看板や掲示物など」が 2 7. 9 %であった一方、「見たことがない」も 2 4. 7 %となりました。このことから、広報紙や現地での注意喚起は一定程度認知されているものの、交通安全に関する取組が届いていない層も一定数いることがうかがえます。 第 1 1 次市川市交通安全計画の期間中における変化については、「市民一人ひとりの交通安全意識や交通マナーは向上したと思うか」という質問に対し、「思う」及び「どちらかというと思う」を合わせた肯定的な回答は 3 4. 8 %、「思わない」及び「どちらかというと思わない」を合わせた否定的な回答は 4 1. 0 %となりました。	

また、「市内の道路環境は安全になったと思うか」という質問に対しては、肯定的な回答が28.9%、否定的な回答が46.0%となり、道路環境の安全性については、改善を求める意見が比較的多い傾向が見られました。

一方、「交通事故に対する救助・救急活動は充実したと思うか」については、肯定的な回答が31.2%、否定的な回答が18.2%であったものの、「どちらともいえない」が50.6%を占めました。

また、「交通事故被害者に対する支援は進んだと思うか」については、「どちらともいえない」の割合が69.8%、「交通事故に対する調査研究は進んだと思うか」については、「どちらともいえない」の割合が60.3%と、いずれも「どちらともいえない」の回答割合が最も高く、これらの分野については、取組内容や成果が市民に見えにくい可能性があることがうかがえます。

交通安全施策のうち、特に重要だと思うものについては、「道路環境の整備」が79.5%と最も高く、次いで「交通安全意識の向上」が66.6%となりました。この結果から、本アンケートの回答者においては、歩道、ガードレール、カーブミラー、信号機、自転車通行空間などの道路環境の整備と、交通ルール遵守や交通マナー向上に対する関心が特に高いことがわかりました。

自由記述欄では、自転車の逆走、歩道上での走行マナー、スピードの出し過ぎ、自転車通行空間の整備などについて、様々なご意見をいただきました。特に、自転車利用者の交通ルール・マナーに関する意見や、歩行者・自転車・自動車が安全に通行できる道路環境の整備を求める意見が多く見られました。

今後は、本アンケートの結果を踏まえ、第12次市川市交通安全計画の策定及び今後の交通安全施策の検討に活用してまいります。特に、道路環境の整備、自転車の安全利用の促進、歩行者や子ども、高齢者の安全確保、交通ルール遵守やマナー向上に向けた啓発、警察や関係機関との連携による取締り・注意喚起などについて、引き続き取り組んでまいります。